

近畿地区会議ニュース



No. 34 ◆ March 2025

Kinki District Branch

令和6年度 日本学術会議 近畿地区会議の活動について

近畿地区会議代表幹事

第2部会員 村山 美穂

(京都大学野生動物研究センター・教授)

第26期の日本学術会議がスタートして、早いもので、すでに1年半近くが経ちました。第25期代表幹事を務められた高山佳奈子先生の後を受けて、私が第26期の代表幹事ということになりましたが、その間、十分に職責を果たせたかどうか、心もとない限りです。多くの方々のサポートのもと、ここまでやって来ることができたというのが実情です。引き続き、会員のみなさまのご協力を心よりお願いする次第です。

日本学術会議は全国を7地区に分け、会員及び連携会員をもって組織された地区会議を運営しております。第26期の近畿地区の会員及び連携会員数は、首都圏に次ぐ439名（令和7年1月時点）という大世帯です。地区会議運営要綱は、その目的を、第2条に「日本学術会議の諸活動を地区内の科学者等に周知徹底し、及び日本学術会議に対する意見、要望を汲み上げて日本学術会議と科学者との意思疎通を図るとともに、地域社会の学術の振興に寄与すること」と定めています。地区会議は、地域社会の学術・文化の振興を担う基本単位として機能するとともに、学術研究の成果を地域の市民に広く還元する役割も担う必要があります。

近畿地区会議は、地区運営協議会を毎年2月頃開催し、その運営方針を審議し決定しています。令和6年度は、学術講演会のテーマとして幾つか提案されたものの中から「市民とともにつくる学術知：シチズンサイエンス／シビックテックの挑戦」を開催しました。今回のテーマは、近畿地区会議運営協議会委員の中村征樹先生（大阪大学教授）、矢野桂司先生（立命館大学教授）など多くの方々の

ご努力で実現したものです。

講演会の詳細についてはここでは申し上げませんが、私も様々な研究分野での市民参加による成果についてのお話を、大変興味深くうかがいました。シチズンサイエンス／シビックテックが将来の学問の発展や文化の継承にとって重要な役割を担い、研究への市民の貢献の範囲が一層広がっていく可能性や、その一方で生じてきた問題点や研究を推進する上で注意すべき点についても、様々な視点からの知見をご紹介いただきました。パネルディスカッションでも多くの質問があり、このテーマへの関心の高さがうかがわれました。シンポジウム後にも活発な意見交換ができ、ネットワークを築くことができました。

場所の手配などはいつものことながら、事務局の方々をはじめ多くの方々のお手を煩わせました。ありがとうございました。

講演会の内容については本号の学術講演会報告を見ていただければと思います。なお、多くの参加者から、興味深いとともに有益だったという賛辞をいただきましたことを付け加えさせていただきます。

近畿地区会議主催の学術講演会・シンポジウムは、地区独自の学術文化懇談会との密接な連携に基づいたものです。学術会議会員、連携会員とともにこの懇談会との協働体制に基づく活動によって、今後とも、一般市民の方々にも日本学術会議のあり方とその社会貢献の姿を広く知っていただく機会にしたいと願っています。令和7年度も、地区の皆様方にとって興味深いテーマを選び開催したいと思っています。

日本学術会議近畿地区会議学術講演会

「市民とともにつくる学術知：
シチズンサイエンス／シビックテックの挑戦」

実施概要

日 時：令和6年9月7日（土） 13時00分～17時00分
主 催：日本学術会議近畿地区会議、京都大学
後 援：公益財団法人日本学術協力財団
場 所：京都大学国際科学イノベーション棟 5階 シンポジウムホール
（オンライン・対面併用開催）

プログラム

開会の挨拶

磯 博康 日本学術会議副会長、日本学術会議第二部会員、
国立研究開発法人国立国際医療研究センター
国際医療協力局グローバルヘルス政策研究センター長

時任 宣博 京都大学副学長、京都大学学際融合教育研究推進センター長

趣旨説明

中村 征樹 日本学術会議第一部会員、大阪大学全学教育推進機構教授

講演

講演1 「シチズンサイエンスによる全国源流域河川水水質調査『山の健康診断』」
徳地 直子 日本学術会議連携会員、京都大学フィールド科学教育研究センター教授

講演2 「外来種ナメクジの分布調査と市民」
宇高 寛子 京都大学大学院理学研究科助教

講演3 「歴史資料の市民参加型翻刻プロジェクト『みんなで翻刻』」
橋本 雄太 国立歴史民俗博物館研究部准教授

講演4 「シビックテックを通じたオープンなデジタル地図の活用」
瀬戸 寿一 駒澤大学文学部地理学科准教授

講演5 「シビックテックの現場から：兵庫県豊岡市での取り組み」
砂川 洋輝 一般社団法人コード・フォー・ジャパン コンサルタント

講演6 「オープンサイエンスがもたらす学術と社会の変容：次期基本計画に向けた視点」
林 和弘 日本学術会議連携会員、
文部科学省科学技術・学術政策研究所 データ解析政策研究室長

パネル討論

パネリスト：上記講演者

コーディネーター：中村 征樹

全体総括

村山 美穂 日本学術会議第二部会員、京都大学野生動物研究センター教授

総合司会

矢野 桂司 日本学術会議第一部会員、立命館大学文学部教授

講演の概要

学術知の担い手として、大学や研究機関に所属する研究者だけでなく、地域住民や一般市民が重要な役割を担うようになってきています。市民がデータ収集等の局面で科学研究の一翼を担い、科学研究の進展に貢献する「シチズンサイエンス」や、市民がテクノロジーを活用して社会課題の解決に取り組む「シビックテック」をとりあげ、それらの活動に取り組んでいる研究者や市民とともに、これからの学術知のあり方について考えます。オンラインでもご視聴になれますので、どの地域におられる方も、積極的なご参加をお待ちしています。



開催報告

令和6年9月7日（土）に、日本学術会議近畿地区会議および京都大学は、地域社会の学術の振興に寄与することを目的として、日本学術会議近畿地区会議 学術講演会「市民とともにつくる学術知：シチズンサイエンス/シビックテックの挑戦」を開催しました（オンライン・対面併用開催）。

冒頭に、磯博康 日本学術会議副会長（国立研究開発法人国立国際医療研究センター国際医療協力局グローバルヘルス政策研究センター長）および時任宣博 副学長（京都大学学際融合教育研究推進センター長）の挨拶のあと、中村征樹 大阪大学全学教育推進機構教授より本講演会の趣旨説明が行われました。

続いて、上記「プログラム」に記載の6名の講演者による講演が行われました。講演後には、趣旨説明にてご登壇いただいた中村征樹教授の進行によるパネル討論が行われました。また、参加者からも多数の質問が寄せられ、活発な質疑応答が繰り広げられました。

最後に、村山美穂 日本学術会議近畿地区会議代表幹事（京都大学野生動物研究センター教授）より全体総括があり、盛況のうちに終了しました。本講演会には260名（うち、オンライン180名）の参加があり、終了後のアンケートでは「今回の講演会をきっかけに、自分自身が積極的に参加できるテーマを見つけたいと感じました。」、「学問に直接関わる人だけでなく、皆でよりよい社会や未来を作り上げていくための活動をすることが、素敵だと率直に感じた。」などの感想が寄せられました。



開会挨拶（磯副会長）



開会挨拶（時任京都大学副学長）



講演の様子
（林室長 文部科学省 データ解析政策研究室）



パネル討論の様子



質疑応答の様子



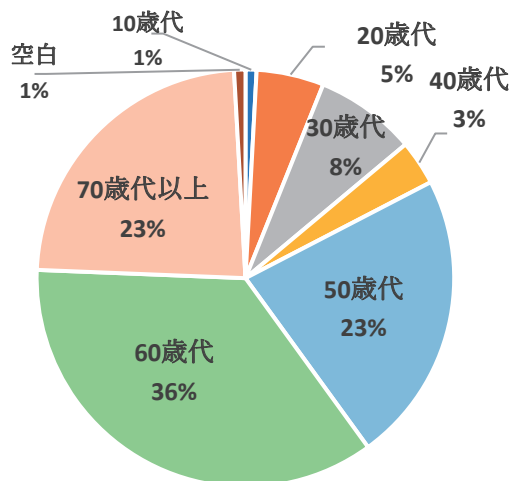
全体総括（村山教授）

日本学術会議近畿地区会議学術講演会

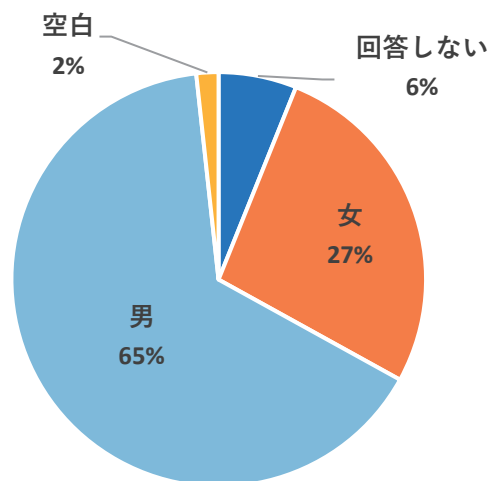
「市民とともにつくる学術知：シチズンサイエンス／シビックテックの挑戦」アンケート集計表

【講演会参加：260名 回答：115名】

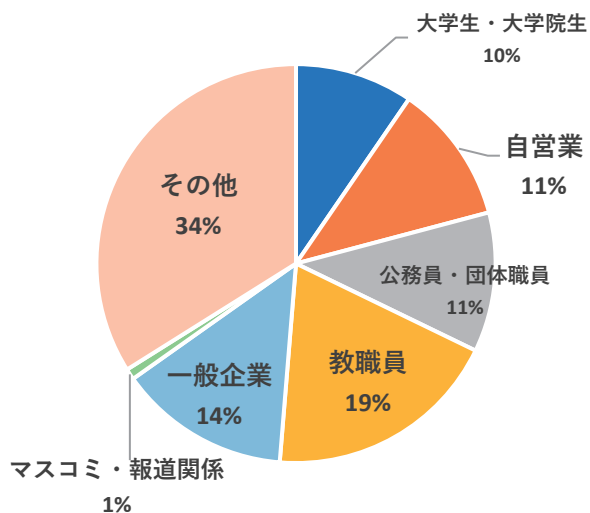
(1) 年齢



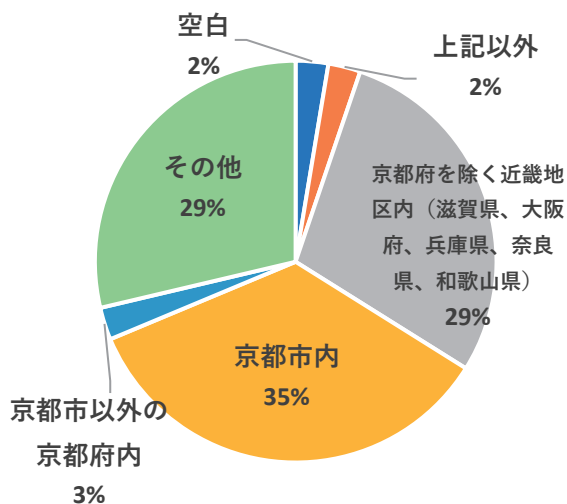
(2) 性別



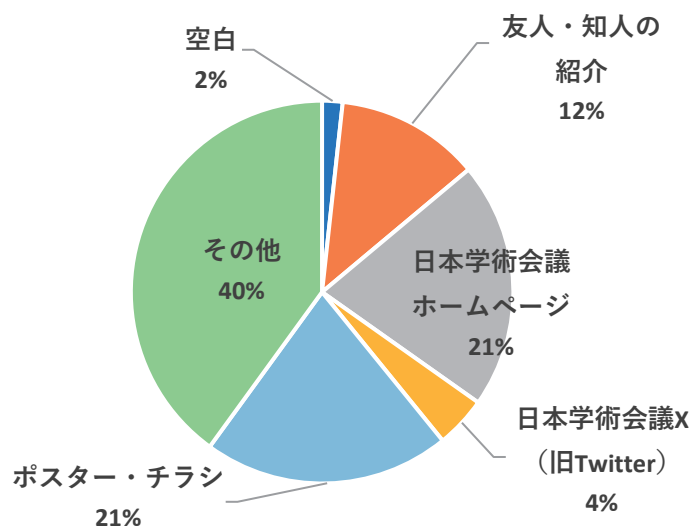
(3) 職業



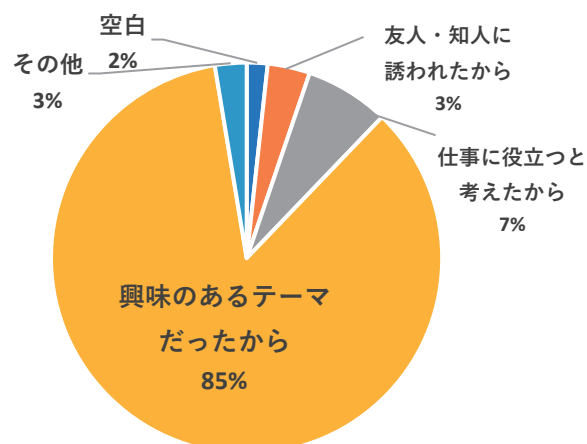
(4) 居住地



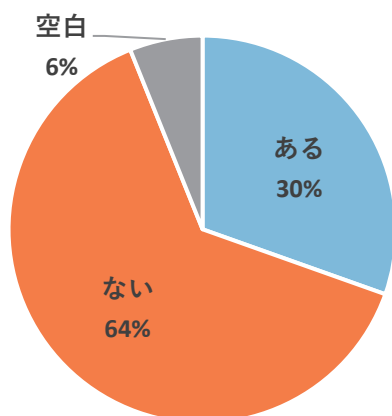
(5) 講演会を知った方法



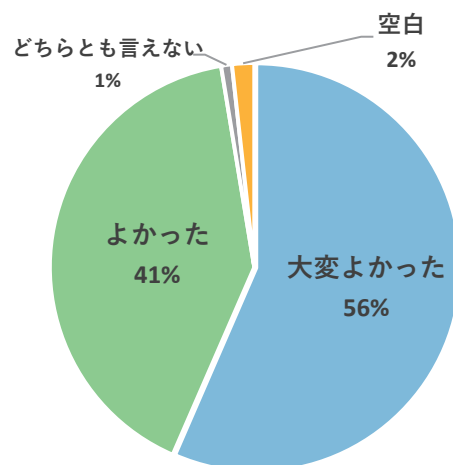
(6) 参加動機



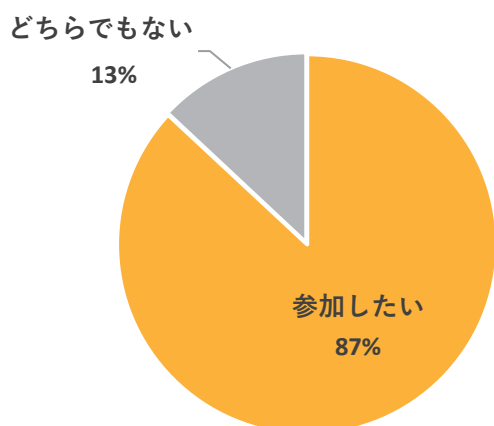
(7) 今までの参加有無



(8) 講演会の内容



(9) 今後参加したいか



*** 日本学術会議近畿地区会議とは ***

日本学術会議は、科学が文化国家の基礎であるという確信の下、行政、産業及び国民生活に科学を反映、浸透させることを目的として、昭和 24 年（1949 年）1 月、内閣総理大臣の所轄の下、政府から独立して職務を行う「特別の機関」として設立されました。

職務は、以下の 2 つです。

1. 科学に関する重要事項を審議し、その実現を図ること。
2. 科学に関する研究の連絡を図り、その能率を向上させること。

日本学術会議は、我が国の人文・社会科学、生命科学、理学・工学の全分野の約 87 万人の科学者を内外に代表する機関であり、210 人の会員と約 2000 人の連携会員によって職務が担われています。

日本学術会議の役割は、主に（Ⅰ）政府に対する政策提言、（Ⅱ）国際的な活動、（Ⅲ）科学者間ネットワークの構築、（Ⅳ）科学の役割についての世論啓発です。

日本学術会議には、地域の科学者と意思疎通を図るとともに学術の振興に寄与することを目的として、北海道、東北、関東、中部、近畿、中国・四国、九州・沖縄の 7 つの地域に地区会議が置かれています。これらの地区会議は、地域の求める情報に即したテーマを設定した学術講演会の開催や科学者との懇談会、地区会議ニュースの発行などを行っています。

地区会議運営協議会は、当該地区に居住する会員又は勤務地を有する会員の中から各部ごとに選出された会員 8 名（令和 7 年 1 月時点）で構成されており、現在、近畿地区会議においては、第 2 部会員の村山美穂（京都大学野生動物研究センター教授）が代表幹事を務めています。

※「日本学術会議地区会議運営要綱」は以下のリンク先よりご覧ください（PDF 形式）。

<https://www.scj.go.jp/ja/scj/kisoku/15.pdf>

近畿地区会議運営協議会

代表幹事	村 山 美 穂	（第 2 部）
	上 東 貴 志	（第 1 部）
	中 村 征 樹	（第 1 部）
	矢 野 桂 司	（第 1 部）
	北 島 薫	（第 2 部）
	大 場 みち子	（第 3 部）
	下 田 吉 之	（第 3 部）
	小山田 耕 二	（連携会員）

近畿地区会議事務局

〒606-8501
京都市左京区吉田本町
京都大学 総合研究推進本部管理オフィス内
TEL: 075-753-2041
FAX: 075-753-2042
メールアドレス
scj-kinki@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

日本学術会議ホームページ

<https://www.scj.go.jp/index.html>